

序

2007年に名古屋医療センターに就任してから、卒後教育研修センターのメンバーとして研修医教育にあたってきました。毎年4月には全国から集まった新入研修医達にオリエンテーション合宿を行っていますが、整形外科疾患のロールプレイングを行ってみると、恐る恐る足を触れてはみるものの診断・治療はというとほとんどできません。

内科的な診察は学生時代に多少触れてはいるものの、大学で習った整形外科知識は救急外来では役に立たず、四肢骨格の診察やX線の読み方については、目の前に患者さんが現れるまでほとんど学ぶ機会はないのが現状です。しかし、研修医は卒後すぐに救急外来に出て骨折患者さんに対応しなくてはならないのです。

そこで研修医達には救急外来外傷症例のJATECをベースとした振り返りカンファを行ふとともに、毎年「骨折の診方と初期診療」と題した講義を行ってきました。

全身における骨折X線の読み方と、注目すべき折れやすいポイントを確認するとともに、鎖骨バンドや三角巾のつけ方、四肢の固定法など実技講習も行いました。

本書の内容はその講義をベースとして、現在日本の外傷治療のエキスパートとして第一線で活躍されている先生たちにも各論の執筆をしていただきました。

本書の目的は、最終的な診断と処置は翌日以降の整形外科専門の先生にお任せするとして、当直医となった今日24時間を正しい診断と応急処置で乗り切るためのスキルを学んでいただくことにあります。

第1～2章では、外傷診療の基本的な考え方、診察・診断のコツ、初期治療・基本手技のコツをまとめました。通して一読していただきたいと思います。

第3～5章では、救急外来でよく出会うcommonな四肢外傷・整形疾患と見逃しやすい骨折を中心として構成しました。目の前の患者さんに対して、部位別総論で解剖を理解し、圧痛点を調べ、疑うべき骨折・疾患の部位別各論ページへと読み進んでください。

研修医のみならず、整形外科を専門としない上級医の先生方も、当直中に訪れた外傷患者さんの診断・治療に迫られることも多いと思います。

本書が全国の救急外来において外傷患者さんの安全な治療に役立つことを願っています。

2014年10月

さいとう整形外科リウマチ科

齊藤 究